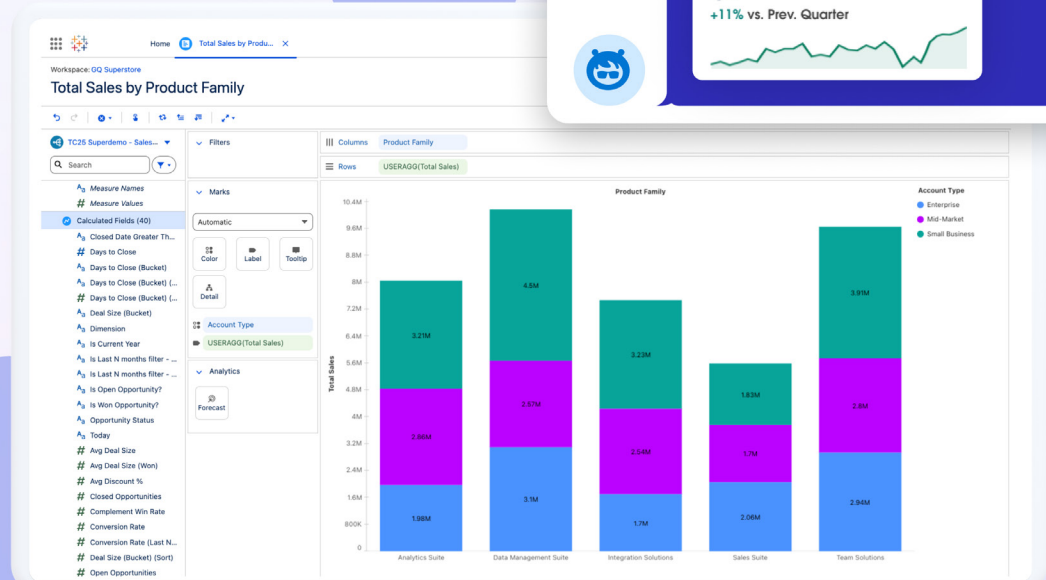


エージェント 分析のガイド

自律 AI はビジネスイン
テリジェンスをどのように
変革するか



目次

概要	03
エージェンティック分析とは	04
エージェンティック分析と従来の BI の比較	05
エージェンティック分析の価値と重要性	07
<ul style="list-style-type: none">• 新たなレベルの効率性• プロアクティブな戦略の推進• 競争力の強化	
エージェンティック分析によるビジネス上の問題の解決	10
<ul style="list-style-type: none">• 分析環境のスケーラビリティ向上と効率化• 意思決定のスピードアップと一貫性強化• ワークフロー内でのプロアクティブなリアルタイムのインサイト提示	
まとめ	12

概要

従来のビジネスインテリジェンス (BI) は数十年にわたり、主に労働集約型のモデルに従っており、人が手作業でデータを分析してインサイトを生成した後、別のシステムでアクションを実行するというものでした。

アナリストはデータのクリーニングや準備から、表計算の作成、ダッシュボードの構築、詳細な分析の実施まで、さまざまなタスクをこなします。この仕事は非常にやりがいのあるものですが、往々にして時間がかかり、完了するまでに何時間、あるいは何日もかかることがあります。

一方、経営幹部やビジネスユーザーは、意思決定に欠かせない適切なデータやインサイトを探そうと時間を浪費し、フラストレーションを募らせています。

しかし今、この状況は変わりつつあります。人間やデジタルインテリジェンスによるデータの利用方法を根本的に一新する、エージェント AI 時代が到来したのです。AI の力を活用し、AI エージェントはいつでも利用できる能動的なパートナーとして振る舞い、推論やプラン策定を行い、作業を自律的に実行することも可能です。

データ分析はこれまで手作業で行われ、時間がかかりミスも多くなりがちでしたが、エージェント分析で効率化、自動化、正確化が実現されます。AI エージェントはきわめて高い効率と各人に合わせたインサイトをもたらし、スキルレベルにかかわらず誰もが質の高いビジネス上の意思決定をスピーディに行えるよう支援します。

93%

の IT リーダーが 2 年以内に自律 AI エージェントを導入する意向を示し、そのうちほぼ半数がすでに導入したと回答。

MuleSoft 2025 年版
接続性ベンチマークレポート

エージェンティック分析とは

エージェンティック分析は BI における大きな一歩であり、データからインサイト、アクションに至るあらゆる段階を強化、加速する AI エージェントを利用しています。単に補助するだけでなく、エージェンティック分析は人が AI エージェントと連携できるようにすると同時に、人間による管理を維持しながら AI を活用した分析への信頼を築きます。

大規模言語モデル (LLM) と新世代のセマンティックモデルを活用した AI エージェントは、定められた目標に向けた自律的なタスク調整、複数の手順からなる分析の実行、分析結果の説明に加え、インサイトに基づいた自動アクションの開始も可能です。

また、情報を提示するだけに留まりません。AI エージェントは所定のガードレールの内側で、ユーザーのニーズを予測できるようになっていくうえ、会話の動的なやり取り、複雑な分析ワークフローの自動化を行います。

たとえばエージェンティック分析では、AI エージェントが複数のデータベースで関連情報を検索してまとめ上げ、アクションプランを提案することができます。AI エージェントは、データ準備からビジュアライゼーション作成までの分析プロセスをスピードアップしつつ、データを能動的にモニタリングし、さらには根本原因を見出します。プロンプトはほとんど、あるいはまったく必要なく、毎日24時間いつでも利用できます。



重要な用語

エージェンティック分析は、BI に対する新たなアプローチです。AI を活用した自律型エージェントを利用して、データの分析、プロアクティブなインサイトの提示のほか、アクションも実行できます。

AI エージェントは、自律型の支援ソフトウェアシステムです。ユーザー入力、環境条件、関連データに基づいて、タスクや目的を達成するために推論やプラン策定を行い、アクションを実行することが可能です。

エージェンティック AI は、人間が管理しなくても AI エージェントが自律的に実行できるようにするためのテクノロジーです。

エージェンティック分析と従来の BI の比較: パラダイムシフト

従来の分析ツールは、主にデータのリポジトリとビジュアライゼーションのプラットフォームとしての役割を担ってきました。インサイトの取得という重要な作業は人間のアナリストが行い、手間も時間もかかります。アナリストはデータのふるい分け、複雑なクエリの作成、結果の解釈に大半の時間を費やし、それがリソースの大幅な消耗を招くとともにタイムリーな意思決定のネックになっています。



分析と BI の進化

- » **従来の BI** では静的なダッシュボードとレポートがすべてであり、主に IT 部門が管理していました。ユーザーが質問するとデータが返ってきます。
- » **セルフサービス BI** では、ビジネスユーザーがデータを探索して、独自のレポートやダッシュボードを作成することができ、IT 部門への依存度は低減されました。
- » **拡張分析** では AI と機械学習が導入され、データ準備や傾向の発見、インサイトの生成などの作業でユーザーを支援しました。
- » **エージェンティック分析** は、AI エージェントの自律性と適応力を活用して、現在の BI ツールが持つ限界を打破します。

BI を根本から変革するエージェント分析は、アナリストのワークフローをスピードアップするだけでなく、組織全体の誰もが AI エージェントを利用して自身のインサイトを見出せるようにします。

ユーザーのワークフローに直接組み込まれたエージェント環境により、信頼できるインサイトをユーザーの作業環境で提供することができます。そのため、質問して答えを出し、アクションを起こすまでの時間が短縮され、データに基づく意思決定が組織全体で促進されます。

従来の BI

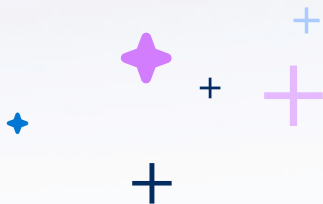
静的なレポート作成とダッシュボード探索

手作業による事後的で過去分析型のインサイト

インサイトを基にしたタイムリーなアクションは、人間の対応力とシステム間の切り替えによって制限

エージェント分析

- ✓ リアルタイムの会話型分析
- ✓ プロアクティブで予測的な提案型の、AI を活用したインサイト
- ✓ ワークフローに組み込まれた、エージェントによる常時モニタリング、インサイト生成、自動化されたアクション



エージェンティック分析の価値と重要性

エージェンティック分析は、BI のこれまでとはまったく異なる新たな一大カテゴリーとして台頭しつつありますが、それには大きな理由がいくつかあります。

自律性: AI エージェントは人間から常時指示を受けなくても、データのモニタリング、意思決定、あらかじめ設定された目標に基づくアクション実行を行うことができます。

プロアクティブなインサイト: エージェンティックシステムは継続的に、データのスキャン、重要な傾向や異常値の検出のほか、インサイトや推奨事項をプロアクティブにワークフロー内で直接提示することができ、プロンプトを入力する必要もありません。

アクション志向: これが大きな差別化要因です。インサイトの提示に留まらず、AI エージェントはインサイトに基づいて自律的にアクションを実行することができます。

エンドツーエンドのワークフロー自動化: 人間によるわずかな操作で、他のデータソースへの接続、データの準備とクリーニング、分析、ナラティブなレポートの生成などを自動化することができます。

継続的な学習: エージェンティック AI システムは、新しいデータ、ユーザー操作、微調整、システム自体がとった以前のアクションの結果から、継続的に学習して改善できるよう設計されています。

エージェンティック分析は、あらゆるユーザーがデータを利用できるようにするうえ、過去ではなく未来志向の分析を実現します。ユーザーは将来の結果の予測だけではなく推奨事項も得られ、効率化、より実践的なインサイト、エクスペリエンス全体の向上に直接つながります。

新たなレベルの効率性

エージェンティック分析は人間の知性にとって代わることが目的ではなく、知性を補完し、強力な新しい連携関係を築くためのものです。エージェンティック AI システムは、大規模なデータセットや複雑な分析にも簡単に対処して、従来の手法ではとうてい不可能だった形で人間の能力を拡張することができます。

データプロファイリングやインサイトの生成、レポート作成などの作業を自動化するエージェンティック分析は、ワークフローを変革するとともに手作業を大幅に削減します。それにより、人間と AI エージェントの連携の新たな素晴らしい機会が生み出されて、人間はより価値の高い戦略的な業務に集中でき、その結果組織全体で、リソース最適化や総合的なパフォーマンスの向上につながります。

アナリストは組織全体のエージェンティック分析に対して、信頼されるアドバイザー兼スチュワードとなります。その役割は、セマンティックレイヤーの定義と整備、ドメイン固有の知識を使った AI エージェントのトレーニング、生成されたインサイトの的確性と信頼性の確保です。

ビジネスユーザーにとっては、エージェンティック分析で誰もがデータを利用できるようになると同時に、分析のスキルレベルにかかわらず、自律的なインサイト発見機能の利用とデータに基づく意思決定のスピードアップを、これまでと同じ業務環境で実現できます。



プロアクティブな戦略の推進

エージェンティック分析は従来の BI を超えて、データストリームの能動的なモニタリング、想定外の挙動の検出、新しい傾向のほぼリアルタイムの発見を行います。これはつまり、ユーザーが最も必要としているときにインサイトを取得できるということで、対応時間のスピードアップと本当の意味でプロアクティブなアプローチにつながります。

エージェンティック分析システムは自律的に、問題の認識や対処に加え、発見した結果に基づいて、あらかじめ設定されたワークフローを実行することもできます。利用者の側から見ると、掘り下げたインサイトが自然言語の会話を通じプロアクティブに提示されるということであり、誰もが簡単に質問して答えを出し、アクションを迅速にとれるようになります。

競争力の強化

今日の目まぐるしく変化するビジネス環境では、意思決定のスピードと的確性がきわめて重要です。エージェンティック分析は、よりスピーディで的確、そしてスケーラブルなインサイトを提供して大きな競争力を実現。

パターンを検出することで将来の結果を予測し、プロアクティブな意思決定と戦略立案を可能にします。また、継続的に学習して進歩していくため、データからインサイト、アクションへのプロセス全体が加速します。つまりユーザーは実践的なインサイトをより迅速に取得して、速やかな実行と大きなインパクトにつなげることができます。



エージェンティック分析によるビジネス上の問題の解決

今日の日まぐるしく変化するビジネス環境で、組織は競争力と意思決定の強化を目指して、データ活用に絶え間なく取り組んでいます。しかし、その多くは厄介な現実直面しています。エンタープライズデータの収集や接続、整備に多大な投資を行っても、企業はデータばかりが豊富になりインサイトに乏しいままなのです。

エージェンティック分析により、AI の生成するインサイトが自動的かつプロアクティブに提示され、意思決定プロセスへシームレスに統合される、画期的な道筋が開けます。

分析環境のスケラビリティ向上と効率化

日々生成される大量のデータは企業にとって大きなネックになっています。従来の手作業による手法で対処するのは難しく、相当の人的リソースを必要とするうえ、意思決定プロセス全体のスピードを落としてしまうため、運営のアジリティや競争力が低下します。

エージェンティック分析では、AI エージェントが大量のデータのモニタリング、傾向の把握、毎日 24 時間体制の詳細レポートの作成を常に休まず行えます。そのため、分析量が劇的に増加して運営コストも大幅に抑えられ、人間は日常的なデータ管理に時間を取られることなく戦略的な取り組みに専念できるようになります。

意思決定のスピードアップと一貫性強化

変化の激しいビジネス運営環境では意思決定の遅れや一貫性に欠けた意思決定が、機会損失、非効率的なリソース利用、収益への直接的な打撃につながりかねません。運営面のあらゆる意思決定を人間のみが担っていると、ルールベースのシナリオでは特に、スピードの低下、ミスの増加、拡張しにくさという問題を引き起こすことがあります。とりわけ、リアルタイムの動的なデータを扱う場合はその傾向が顕著です。

エージェント分析は、定義されたルールベースのシナリオで、AI エージェントによる自律的な意思決定を実現してこの問題を解決します。インテリジェントな AI エージェントは動的なデータに基づいて、人間の能力を超える一貫性とスピードを実現しながら、事前に許可されたアクションを実行することが可能となり、変化する状況にも企業は迅速に対応できます。

たとえば AI エージェントで自動的に、投資対効果を最大限に高めるように広告費を最適化する、在庫量をリアルタイムで調整する、重大な異常値が大きな問題になる前に早急に対応するよう警告するなどのアクションが可能です。



ワークフロー内でのプロアクティブなリアルタイムのインサイト提示

従来の分析環境では多くの場合、「何が起こったか」を示す過去の状態が提示されますが、市場の変化を予測するため、あるいは重大化する前の問題に対処するために必要な、プロアクティブでタイムリーなインテリジェンスは得られません。また多くの場合、アクションを取るために他のシステムへ切り替える必要もあります。こうした事後対応的なアプローチによって、企業は脆弱になり時流に乗り遅れる結果にもつながります。

事後対応から事前対応へ組織を改革するために、エージェント分析はワークフローの中で強力なインサイトを提供します。AI エージェントは継続的にデータをモニタリングして傾向の把握や結果の予測を行い、重大なイベントが発生するとすぐにステークホルダーへ警告したり、アクションを自動的に実行したりします。

企業はこれにより、市場の変化や運営上の課題が大きな問題へ発展する前に迅速な対応をとって、あっという間に過ぎ去るチャンスを逃さず捉え、いっそうスピーディかつ綿密にリスクを軽減することができます。



%%

90%

のビジネスリーダーは、業務で最も利用するプログラムやアプリで、つまりワークフローの中で直接、必要なデータにアクセスできれば、パフォーマンスの向上が見込めると回答。また86% は、もしそのような状態であればデータをより頻繁に利用するだろうと答えています。

Salesforce, Trust in Business Data Leaders Survey, 2025

まとめ

エージェンティック分析は、業務効率化のためだけのものではなく根本的なパラダイムシフトです。データに基づいた業務の進め方を見直し、社内のチームが好奇心と新しい発想を持って問題を解決できるようにすることで、大きな優位性をもたらすように設計されています。

エージェンティック分析は、現在組織が苦慮しているデータや分析の特に大きな課題に直接対処します。具体的には、断片化したデータを統合して、データからのインサイトの信頼性を確保し、社内の誰もがすばやく答えを導き出せるようにしたうえで、最も重要なこととして、それらのインサイトをタイムリーなアクションに直接つなげます。

その結果、これまでよりレジリエンスが高く、対応も迅速でインテリジェントな組織が構築されるのです。さっそく使い始めましょう。

データ + AI 戦略の策定

現在の新たなエージェンティック AI 時代に、データから本物の競争力を得るために欠かせないのは、最先端のツールだけに留まりません。導入や自動化、長期的なインパクトを促進する現実的な計画に裏打ちされた、将来に対する明確なビジョンが必要です。

そこで Tableau は、データ・AI トランスフォーメーションを取り巻く幅広い環境に対処するための手引きを作成しました。[エージェンティック AI 時代のための Tableau Blueprint](#)をご覧ください。

世界初のエージェンティック分析プラットフォーム

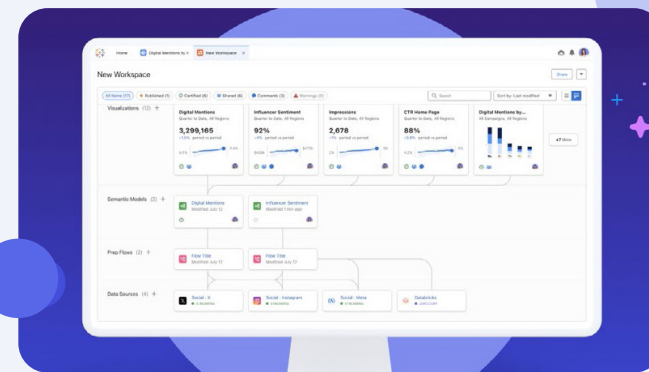


Tableau Next は、世界初のエージェンティック分析プラットフォームです。Salesforce 上に構築され、Agentforce と統合されているうえ、統合データレイヤーや信頼できるセマンティクスを利用。あらゆる業界のあらゆるユーザーに、各人と状況に合わせた実用的なインサイトをワークフローの中で直接提供します。Tableau の長年にわたるアナリティクスエクセレンスと Salesforce Platform の利点を組み合わせた Tableau Next は、エージェンティック分析をリードする唯一無二のプロダクトです。

詳しくは、[Tableau Next](#) のページと[紹介ビデオ](#)をご覧ください。



Tableau は、エージェンティック分析ツールと AI を活用した BI ツールのスイートを提供しており、あらゆる業界のあらゆるユーザーが、信頼できるデータから実践的なインサイトを引き出せるよう支援しています。予測 AI、生成 AI、エージェンティック AI の機能に支えられた Tableau は、先を見越したインサイトと容易な分析を実現します。

その基盤となるのは、コネクテッドで適応力がある Tableau 分析プラットフォームです。テクノロジーと AI に関するお客様の戦略の発展に合わせて、ご利用のアーキテクチャに幅広い選択肢と柔軟性を提供します。セキュリティ、データガバナンス、コンプライアンスが組み込まれており、いつでも利用可能な信頼できるプラットフォームなので、データに対する新たな要求が生じても、組織はアジリティを維持することができます。

Tableau は、業界最大級を誇るパートナーと成功のエコシステムに支えられ、世界中の組織が抱える固有のニーズを支援しています。その一端を担う活発な Tableau コミュニティは、AI の取り組みのあらゆる段階にわたって指導、支援、チャレンジ、称賛という形でお客様をサポートします。Tableau でデータ活用を始めて前進し、限りない未来を手に入れましょう。詳しくは、www.tableau.com/ja-jp をご覧ください。